

夜間測定機能付き家庭血圧計とABPMで評価した夜間血圧降下度の比較：J-HOP Nocturnal研究データからの検討

富谷 奈穂子

自治医科大学 内科学講座 循環器内科学部門／最先端循環モニタリング研究開発講座

【背景】 通常ABPMで評価される夜間血圧降下度が、夜間血圧測定機能付きの家庭血圧計を用いた血圧測定スケジュールでも、評価可能か検討した。

【方法】 家庭血圧の心血管予後推定能に関する観察研究「J-HOP Nocturnal BP研究」のデータベースより、24時間自由行動下血圧測定（ABPM）を実施した927名（63.2 ± 10.8歳、男性50.2%）について、家庭血圧とABPMで評価した夜間血圧降下度を後ろ向きに比較検討した。起床後、就寝前、夜間（AM2, 3, 4時）に14日間測定した家庭血圧から（1 - [夜間血圧平均 / 起床後・就寝前血圧平均]）を算出し、「家庭血圧で評価した夜間血圧降下度」とした。

【結果】 家庭血圧で測定した夜間収縮期血圧（SBP）平均および起床後・就寝前SBP平均は122.6 ± 14.2 mmHgおよび134.2 ± 13.7 mmHgであった。ABPM夜間SBP平均は120.3 ± 14.1 mmHgで、昼間SBP平均は135.7 ± 13.2 mmHgであった。家庭血圧で評価した夜間血圧降下度分類はExtreme-dipper 6.9%; Dipper 36.1%; Non-dipper 42.8%; Riser 14.1%であり、ABPMではそれぞれ、14.8%; 42.4%; 33.2%; 9.6%であった。家庭血圧による夜間降下度分類とABPMによる分類が一致するのは41.0%（ κ 係数0.19）であった。また、家庭血圧による夜間降下度には日間変動がみられた。

【結論】 家庭血圧計とABPMによる夜間血圧降下度の評価は、一致率があまり高くない。夜間血圧降下度の日間変動が影響しているのかもしれない。また、家庭血圧の方がRiser/Non-dipperの割合が高いことから、家庭血圧では異なる分類閾値の設定が必要なかもしれない。